

## 乳幼児保護者の皆様からの主な提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	H29夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
①保育所の入所	市の第2子保育料等無料化をはじめとした子育て施策は、他市在住者から見ても魅力的であるが、転入増による子どもの増加により保育園に入れなくなるおそれがあるのではないかと。人気があり、保育士の足りていない保育園については、他の園から応援として保育士を異動させることはできないのか。	現段階では、市内に待機児童はいませんが、育休・産休等による保育士不足で0歳児の保育園の入園をお断りしている園があり、希望する園に入れられないというケースがあります。市内の保育園は、市立の2つを除いて、全て私立となっており、運営者が違うことから雇用の問題上、職員の異動は難しく、また、全体的に保育士が余っているという状況ではありません。なお、ご兄弟がすでに入園されている場合は、違う保育園に行くことが無いよう、優先的に入園いただけるようにしています。
②交通安全	子どもが増えれば、通学路の安全対策をより行う必要があるのでは。	交通安全対策については、市として注意していきますが、子どもには通学路に慣れていただき、その保護者や地域の皆様にも気を付けていただきたいと思います。
③商業施設等の誘致	滑川市は、交通の便が良いが、大型商業施設が少ない。市内にお金を落としてもらうなど、税収確保のため、そういった施設を誘致する価値はあるのでは。	大型商業施設の進出については、業者からの引き合いもありますが、市に商業面の弱さがあるのも事実です。現在、製造業等の企業誘致や設備投資による税収確保に力を入れており、災害時の迅速な初期対応を行えるよう、積立金も毎年確保しているところです。
④児童の送迎	小学校児童の送迎が多すぎると思う。昔はこんなに多くはなかった。徒歩で通学できるから現在の小学校区になっているはずであり、送迎の保護者と児童の間で事故があった場合は、お互いに嫌な思いをする。	-
⑤コミュニティ形成	行政が空家対策・人を呼び込む方策などを繰り返し、市の財政の支出が増えることが懸念されるため、地元の人と、転入者との協働・コミュニティ形成を、大人はもちろん、子どもも早い段階から理解し、地域を守っていくことが大切である。	誰も将来の予測を的中させることはできません。世界の情勢によりどのようにでも変わっていくものです。このため、市としては、今取り組めることを真剣に行うことが必要と考えています。
⑥青壮年向けの商業施設	滑川市は近隣市のベッドタウンとして発展してきているが、買い物や働きの場は市外にある。住環境は良いが市内にお金を落としてもらえるような、青壮年に向けた商業施設等があれば良い。	商業施設等については、進出しようとする企業は、利益が出るとされる所へ、行政区域は考慮せずに立地しますので、難しい問題です。なお、働く場においては、市はものづくりのまちとして企業立地が進んでおり、働き手が不足しているところです。
⑦農道の舗装	旧あずま保育園跡地(現市職員駐車場)からあずま保育所駐車場へ向かう農道に雑草が繁茂している。この道は車の通行が無いので安全に通園できるため、舗装しただけなのか。	ご提言のような農道・里道の除草等については原則、地元町内会に対応をお願いしているところですが、まずは現地を確認し、市としてできることがあれば対応したいと考えています。
⑧救急車の運転	町内に救急車が来た際、他に大きな道があるのにわざわざ狭い道に進入し、切り返しを繰り返していた。救急の時間をロスしており、目的地までのシミュレーションをしっかりと行うべき。	富山県東部消防組合の設立による消防広域化で、消防署員のなかに滑川市の地理に詳しくない者がいることが原因の一つだと考えられます。ナビゲーションシステムだけに頼らず、助手席にいる者がしっかりと誘導することを徹底する必要があります。
⑨幼稚園の見学	市内の幼稚園・保育所等について、年に1回で良いので施設を見学できる機会がほしい。併せて、各園の特徴や取り組みも知りたい。	現在、幼稚園等に入園希望の方には当該施設を見学いただいておりますが、日を決めて全ての施設を見学できないか、各施設長と相談し、検討します。
⑩サイレン	消防のサイレンが鳴らなくなった理由として、「サイレンを鳴らすな」という声を受けたことによるものと聞いた。	防災無線のデジタル化により、鳴らなくなったものです。現在、分団員にはメールにて火災等の案内をしていますが、団員が気付かないことも想定され、防災無線のデジタル化の活用など、早い時期にサイレンを鳴らせるよう努めます。